



稲作農家 各位

山武稲作情報 第2報

(2020年6月4日発行)

山武農業事務所 改良普及課
 電話 0475-54-0226
 FAX 0475-52-7914

山武地域の生育状況

4月下旬に移植し活着が良好であったほ場では、生育が順調で、中干し開始茎数に達しています。一方、昨年秋期～冬期の降雨により耕うんができず稲わらの分解が不十分なほ場では、還元害による生育抑制が見られます。下葉が黄色く、褐色の斑点がある場合は還元害を受けています。一旦落水して数日間土壌中のガスを抜き、その後は浅水管理を行い茎数の増加を図ってから中干しを行いましょ。また、5月中旬以降に移植したほ場では浅水管理によりスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害の抑制を図りましょ。

表1 作柄調査ほ等の生育（調査日6月1日、平年値は過去10年（成東育成地は7年）の平均）

品種	場所	年	移植日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 SPAD	葉色 カラー スケール
ふさ おとめ	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	9.7	36	27	493	45.6	5.7
		2019	4/25	8.5	28	26	477	43.8	5.5
		平年値	4/26	8.7	31	27	491	41.1	5.1
	山武市 (白幡)	2020	4/29	8.6	29	15	327	41.8	5.2
		2019	4/26	8.3	25	13	260	44.4	5.5
		平年値	4/27	8.4	31	20	361	41.7	5.2
ふさ こがね	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	8.9	36	26	496	46.0	5.7
		2019	4/25	8.2	28	24	448	44.2	5.5
		平年値	4/26	8.4	30	25	461	41.8	5.2
	山武市 (井ノ内)	2020	5/2	8.1	32	23	362	41.9	5.2
		2020年から新設のため平年値、前年値無し							
コシ ヒカリ	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	8.7	39	21	389	42.1	5.2
		2019	4/25	7.5	31	22	402	42.0	5.2
		平年値	4/26	7.8	33	22	405	40.1	5.0
	東金市 (幸田)	2020	5/2	7.2	33	15	268	39.1	4.8
		2019	5/4	7.7	34	19	318	39.4	4.9
		平年値	4/26	7.7	37	18	335	40.3	5.0
粒すけ	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	8.8	36	24	445	45.9	5.7
		2019	4/25	8.5	30	29	533	45.8	5.7
【飼料用米】									
アキヒカリ	山武市	2020	4/26	—	40	29	467	42.1	5.2
夢あおば	山武市	2020	5/15	—	28	6	103	—	—

表2 幼穂形成期（予測値）

品種	ふさおとめ			ふさこがね			コシヒカリ			粒すけ		
	移植日	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1
幼穂形成期	6/16	6/21	—	6/17	6/22	7/4	6/25	6/30	7/11	6/25	6/30	—

生育ステージ予測システム（令和元年度千葉県試験研究成果普及情報）によりアメダス（横芝光）の気温から推定（「粒すけ」は調査ほの生育状況から推定）。移植時の苗の葉令、活着状況、ほ場ごとの気象条件、予測日以降の気象条件等による誤差あり。

これからの管理のポイント

○適期中干しを心がけてください

幼穂形成期の目標茎数の8割程度（「コシヒカリ」は目標穂数の8割程度）を確保できたら（「水稻の生育状況と当面の対策」表2参照）、中干しを開始します。中干しには、無効分げつを抑制したり、根の活力を高めたりする効果があり、高温登熟障害の予防や登熟向上、倒伏軽減としても有効です（下図参照）。

両総用水の止水期間は6月16日から6月30日までの予定です。

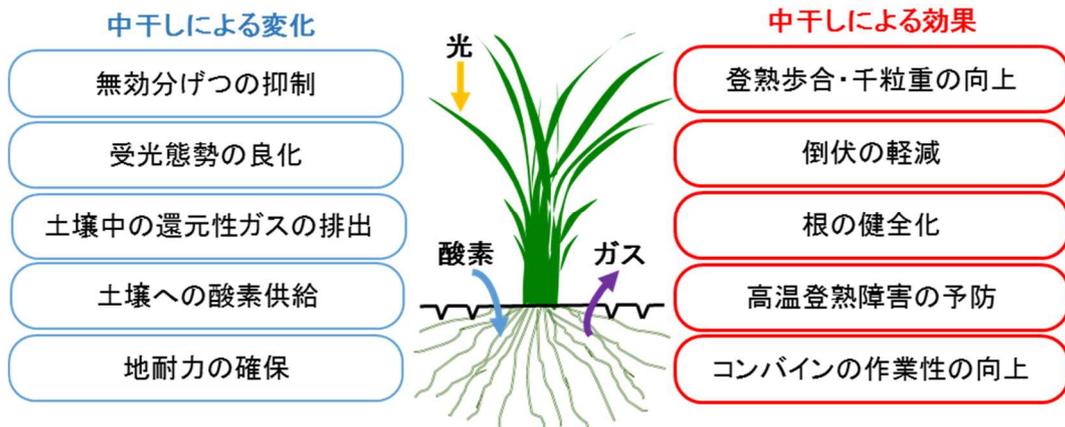


図 中干しによる変化と効果

コラム② 難防除雑草 ～コウキヤガラ・オモダカ～

主に塊茎（イモ）から発生する難防除雑草は、ダラダラと長期にわたって発生し、除草剤が効きづらく、初中期一発剤だけでは防除しきれません。雑草の生態を知り、的確な防除を行いましょう。今回はオモダカとコウキヤガラの特徴と防除のポイントを紹介します。

○コウキヤガラ

塊茎から発生した親株から地下茎で分株し、増殖します。新しい塊茎は7月の始めから形成され始め、稲刈り時には地上部は枯死しています。そのため、稲刈り後の秋季防除が不可能で、イネの生育期間中にバサグラン液剤等の散布により防除します。

○オモダカ

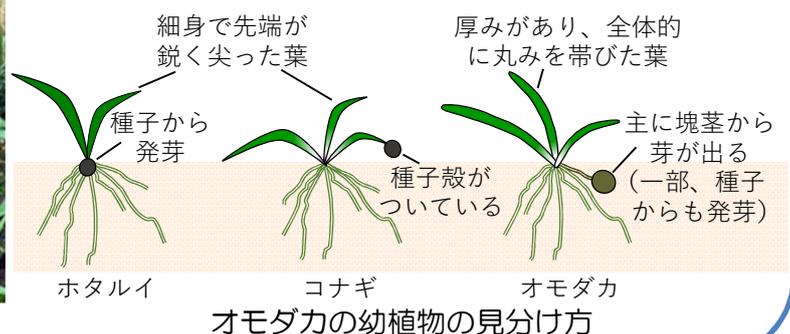
塊茎には休眠性があり、大きい塊茎では地表下 20cm から出芽し、発生期間が8月上旬までの長期にわたります。幼植物ではホタルイやコナギと見分けがつきにくいので、よく観察して防除を行います。イネの生育期間中に初中期一発剤と中期剤を組み合わせた体系防除に加え、秋季の非選択性除草剤の散布や耕うんにより防除します。



コウキヤガラ



オモダカ



次回の情報は6月18日（木）に発行する予定です。